参考資料２

第１回　常願寺川水系流域委員会　議事要旨

開催日時：令和５ 年９ 月 29 日（金）15:00～17:00

開催場所：富山河川国道事務所 ３階 大会議室（Web を併用）

議事次第：１．開 会

２．挨 拶

３．出席者の紹介

４．設立趣意、規約

５．委員長の選出

６．議 事

（１） 常願寺川水系流域委員会の進め方

（２） 常願寺川水系河川整備計画の点検

（３） 今後の予定

７．閉会

【議事要旨】

議事４．設立趣意、規約

設立趣意、規約について了承された。

配布資料　資料 2-2（常願寺川水系流域委員会 公開規定）

配布資料　資料 2-3（常願寺川水系流域委員会 傍聴規定）

［Ａ委員］

傍聴規定について違反をした場合の罰則規定について、何か考えがあるか。

［事務局］

現時点では具体的な措置の内容は決まっていない。違反の内容に応じて検討していきたい。

議事５．委員長の選出

福岡委員が委員長に互選された。

議事６．議事

（1）常願寺川水系流域委員会の進め方

配布資料　資料３　P.6（事業再評価）

［委員長］

計画段階評価・事業再評価・事後評価とあるが、今回の流域委員会はどれに当たるのか。

［事務局］

事業再評価は事業着手後、一定期間が経過した事業について審議を行うものであり、計画段階評価は事業が始まる前に審議を行うものである。今年度の流域委員会では事業再評価について審議いただく予定である。

（2）常願寺川水系河川整備計画の点検

配布資料　資料４　P.29 流域の社会情勢等の変化（3）洪水等の発生状況

［Ｂ委員］

昭和 44 年以降の流量、雨量の経年変化を見ると、一般の人は常願寺川は安全だと思ってしまう。流域治水の話を含めて積極的に啓蒙すべきである。

各年の流量と雨量のグラフは同じ事象を整理したものなのか。違う事象であるとミスリードしそうなので、同じ事象で揃えた方がよい。同じ事象であれば、たとえば平成 29 年と平成 30 年は雨量と流量の大きさが逆転しているが、どのように解釈しているのか。

［事務局］

2 日雨量では平成 30 年の方が大きいが、時間雨量で見てみると平成 29 年の方が短時間に雨量が集中しているため、流量が逆転する結果になったと考えられる。

今後、基本方針・整備計画の見直しを検討する上で、降雨の継続時間にも着目し、分析・検討を進めていきたい。

配布資料　資料４　P.30 流域の社会情勢等の変化（4）常願寺川流域における降雨状況

［Ｂ委員］

今はレーダー雨量が観測されているので、これからは面積としての雨量の分布がどのように変わっているかが気候変動を考える上で重要なポイントになる。流域治水についても同様に面的な雨の分布、データの解析が必要である。

［事務局］

今後、河川整備基本方針・河川整備計画の見直し検討の中で考えていきたい。

配布資料　資料４　P.39 河川整備計画の点検結果の詳細一覧

［Ｂ委員］

今後の方針の記載に「浸水状況の提供」とあるが、どういう意味なのか。

［事務局］

「浸水想定区域図やリスクマップ」など、浸水範囲を示す図面の提供を指しているので訂正する。

［Ｂ委員］

気候変動を考える中で、上流域でスポット的に例えば集中豪雨が降ったときに、河道に効いてくるのはどのような雨なのか分析する必要がある。

配布資料　資料４　P.35　河川整備計画の点検結果

［Ｃ委員］

気候変動に伴う河川整備計画の見直し検討はどのようなスピード感を持って進めるのか。

［事務局］

計画の見直しについてはスピード感を持って実施するが、変更時期についてはまだ決まってない。

［委員長］

河川整備計画の見直しに向かって検討していくということでよいか。

［事務局］

そのとおり。

配布資料　資料４　P.13　河川整備の実施に関する事項の進捗状況（２）洪水による災害の防止または軽減

［Ｃ委員］

堤防抵抗力の評価結果から急流河川対策の整備箇所を選定しているが、河川整備計画を策定してから 10 年経過しており河道は変わっている。堤防抵抗力評価の見直しは検討しているか。

［事務局］

今後、現在の河道断面における堤防抵抗力評価を検討していきたい。

［Ｃ委員］

根固め水制工のところで被災していると聞いたが、その手当は整備メニューに入っているのか。

［事務局］

根固め水制工部の護岸の損傷については維持修繕で対応している。平成 24 年などに、根固め水制工下流の練り石張り護岸の損傷を確認している。なぜそのような事象が生じたか、発生要因の分析等を進めている。日常的な点検を実施しており、最近は新たな箇所は見つかっていない。また、同じような被害が生じていないか点検しながら、どういった対策がよいかを検討している状況である。

配布資料　資料４　P.34 河川整備に関する新たな視点（１）気候変動を踏まえた治水計画

［Ｄ委員］

近年、流域治水を進めるにあたり、ハード対策だけではなく、地域と連携しながらソフト対策も一緒に考えていくことが基本だと考えている。その中で、L1、L2 の規模感をどうしていくのか。次の 5 年の中では想定最大規模(L2)に対して、考えていかないといけないフェーズが来るのではないか。それに向けて今後対策していくということでよいか。住民が危機感を持つような意識改革をかなり大がかりに行わなければならない可能性があるので、早めの情報提供が必要である。

例えばP.34 の緑の箱書きのところ（被害の軽減、早期復旧・復興のための対策）で、避難訓練を行っているが何人が来たか、継続的に実施されているか等、定量評価できる部分もあるので、そのようなところを評価し、情報提供・公開してもよいのではないか。

一番気になるのは、要配慮者の個別避難計画であり、市町村や県との連携も必要であるが、ある程度この事業の中で考えていくのか、それとも十分広がっているので流域治水のソフト防災は高まっていると、あるいは維持できていると読み替えられるような何かの指標など、見える情報があった方がよい。

［事務局］

避難訓練に何人来たのか、継続されているのかということについては、減災対策協議会で各市町村の取組が紹介され共有しているものの、定量的な評価（何人が参加しているか）までは示されていないので、情報公開ができるかどうか市町村と考えていきたい。

要配慮者の避難計画については、国でも技術的なサポートを実施している。

配布資料　資料４　P.35 河川整備計画の点検結果

［委員長］

河川整備に対する新たな視点で「河川区域内で行う河川整備内容に変更はない」と書ききっているが、流域治水は河道の中だけの話ではないので、市・県も含めて考えないといけない。L1、L2 の話も含めて色々な災害も起こりうるので、河道をどうするかということと同時に、直轄区間だけでなく流域全体としてどう見るのかという点が抜け落ちている。

［事務局］

大事な視点である。流域全体の視点を入れた表現に改めさせていただく。

［Ｄ委員］

個別避難計画は主体が違うところにあるので難しいのかもしれないが、例えば連携するとか後方支援を行う等、関わり方は色々あるので、一体となって実施するという表現があるとよい。

配布資料　資料４　P.24 河川整備の実施に関する事項の進捗状況（5）河川の維持管理

［Ａ委員］

水系、流域といった話の中で、用水路はどう考えているか。魚類を評価する際には、水がつながっているところは本川以外も全て一緒に考えなければならない。情報共有となるのか、その視点を入れるのかということになるが、考えていただけるということでよいか。

［委員長］

当然一連のものとして考える。

［Ａ委員］

魚類について考えると、富山県内の河川で一番怖いのは水が切れることである。この夏も大日橋の上流では常西用水からの流入があるので魚は生息しているが、中流は切れかかっていた。魚類に関しては、水が切れないこと、季節によって生息場が違うという点を配慮して頂きたい。

P24 のデータだけでは魚類の評価はできないので、過去の調査結果を見せてほしい。カムルチーが不思議な出現をしているが、本川ではなくため池で確認されたものだと思われる。ニジマスについても上流のどじょう池で繁殖したものが流れ出てきたのではないか。確認されたものをきちんと評価しないといけない。データをもらえればコメントさせていただく。

利用の話では、上滝の利用が非常に多く、県外からも多くの人が訪れている。知る限り富山県内で川に触れる一番良い場所なので、利用しやすいようにしてほしい。

魚類調査については、データだけで評価するのは難しいので、環境 DNA など調査の仕方を考えていく必要がある。量的なこと、生産性のことをいえば、常願寺川は生産性の低い川であり、魚よりも水生昆虫の量を調べるとわかる。

県内全域に関わってくるが、ミズワタクチビルケイソウという外来の珪藻が全国的な問題になっている。国交省の工事で生じるものと利用によって生じるものがあるので、そのようなことも視野に入れてほしい。

［事務局］

色々なデータをお渡しして個別にご指導いただきたい。上滝については、事務所でも非常に多くの方が利用していると感じているところであり、地元の声等を踏まえて一緒に何ができるかを考えていきたい。

配布資料　資料 4　P.24 河川整備の実施に関する事項の進捗状況（5）河川の維持管理

［Ｅ委員］

富山市科学博物館では、常願寺川で 45 年間ほぼ毎年、アキグミ摘みの行事を行っている。当初は上滝から始まったが、数年でアキグミ群落が他の植生に変わるので、たびたび開催場所を変更し、現在は常願寺川公園の近くで実施している。砂礫土壌を指標とする植物が減っているということは、河原の攪乱が減っていることを表している。一方で、巨石付き盛土砂州によりアキグミ群落が回復するのは非常に良いことである。河川防護と環境に配慮した川づくりを象徴しているものであり感心した。

配布資料　資料 4　P.23 河川整備の実施に関する事項の進捗状況（5）河川の維持管理

［Ｅ委員］

流下能力に影響を及ぼしたり偏流を起こしたりするような樹木は積極的に伐採して頂きたい。河川敷の栄養分蓄積の観点からみると、伐採後に無償配布し持ち出してもらっているは理にかな

った方法である。河川敷にたまったエネルギーを熱エネルギーとして使うことになるので、環境にもよいことである。

一方、バックホウによる踏み倒しと削り取り整形については、河川敷にエネルギーを蓄積するので、これを 20 年くらい続けると、高水敷の土壌が肥沃化し草木の再生する速度が速くなるかもしれない。どこまで続けるとどうなるかデータも少ないので調査をしつつ進めてはどうか。

［事務局］

伐採した樹木の再繁茂を抑制する目的でバックホウによる踏み倒しを行っていたが、ご助言をいただいたので考えていきたい。

配布資料　資料 4　P.27 流域の社会情勢等の変化（２）気候変動による外力の増大(全国)

［Ｆ委員］

気候変動について、全国的なものを資料に掲載し説明しているが、本当にそれでよいのか。この地域の特性や雨の降り方を抑えておく必要があるのではないか。解析をした結果、全国平均と同様になったという理由があればよいが、妥当性のある理由が示されないといい加減なことを行っているのではないかと疑われてしまう危険性がある。数字や根拠の不明瞭な定性的な説明や議論で流すのは良くない。

気候変動に伴い気温が上昇し降雨量が増えるのはよいが、降る雨の質がどうなっているのかを考える必要がある。例えば、山腹崩壊を考える場合は、連続雨量よりも短時間降雨強度の方が重要となるため、質的な変化を視野に入れた解析をするとよい。

［事務局］

今回は、気候変動に伴う検討が必要だという触りの部分だけを紹介させていただいた。今後、降雨継続時間等を踏まえた詳細な検討を進めたいと考えている。

［Ｆ委員］

基本的な話のはじめの一歩であり、間違えると方向性を見失うため慎重に検討されたい。

RCP のシナリオは公表されている機関によって倍率が異なるようである。隣接する中部地方は日本全国の中でも北海道や九州と同じように倍率の高い地域であり、その倍率は 1.05～1.23 倍と幅を持っている。降雨特性を考慮した上で，常願寺川流域というくくりで整理できればもう少し議論が進むと思われるので、ぜひ検討をお願いしたい。

［Ｇ委員］

北陸電力では神通川と常願寺川で利水ダムを管理している。神通川ではほとんど貯めることのできないダムが多く、常願寺川には大きなダムがあるが、かなり上流にあって集水域が小さく、貯まる水はほとんど雪解け水という変わった特徴を持っている。また、土砂崩れによって石が堆積した状態にあり、今年は渇水だったが雪解け水を上手く使ってなんとか水を切らさないように苦労している。

神通川では市民的な取組の中で、利水者・国交省・地域住民が各々の立場で情報交換を行っており、現在、誰でも気軽に立ち寄って交流できる専用のプラットフォームが開設され、市民の中で独りで歩く状態まできている。常願寺川でも同様な状態になるとよい。

工事する上で、資機材の高騰が問題となっている。今後、事業を進めていく上で、資機材の高騰でスケジュールが後ろにずれるかもしれないが、必要なものは要求しながらスピーディに進めていただきたい。

配布資料　資料４　P.17 河川整備の実施に関する事項の進捗状況（２）洪水による災害の防止または軽減 他

［H委員］

一市民からすると資料にわかりにくいところが沢山ある。例えば p.17 の「フラッシュされる」という意味がわからない。情報量が多く専門用語を使わないとまとまりきらないという事情もあるのだろうが、この資料は国交省のウェブサイトで公表されるので、例えば括弧書きでわかりやすい言葉を併記するなど、一般市民が読みやすい形にしていただきたい。

［委員長］

大切なことなのでぜひ検討をお願いしたい。

配布資料　資料４　P.35 河川整備計画の点検結果

［委員長］

河川整備計画の点検結果として、事務局が検討し「（１行目）課題解決に向けたモニタリングや検討を進めつつ、引き続き、現計画に基づき河川整備を実施していく。（２行目）併せて気候変動等に伴う河川整備基本方針、河川整備計画の変更に関する検討を行っていく。」と記載している。

各委員から非常に重要なご意見をいただいた。そのご意見については、今後の計画に反映してほしいということであると解釈した。「引き続き現計画に基づいて河川整備を実施していく」というのは、常願寺川としては大きな出水はなく、整備計画策定後、気候変動問題や流域治水の新し

い課題が出てきたときに、次の計画変更に移っていきたいという意志が込められているのだと思う。

本日出された意見全般をまとめると、事務局の点検結果で実施してもよいが、２行目に関しては、現計画でも次の段階の計画を意識しながら検討を進めてほしいと解釈したが、委員の皆様如何でしょうか。

（委員から異議の声無し）

［Ｃ委員］

一個人として感じたのは、富山や河川の歴史・文化は非常に素晴らしいものがあるということ。国として、色んなところと連携しながら地元の方に伝えていっていただけるとありがたい。

［委員長］

流域治水については既に動いているので、それを組み込むことを意識しなければならない。地域の方々や関係機関を含めて国交省としてどう考えていくかが大事である。「現計画に基づき」の中にはもう少し流域治水的な考えも入っているということをしっかりと意識した方がよい。

［事務局］

頂いたご意見の中で、流域治水の緑枠（被害の軽減、早期復旧・復興のための対策）の話があったが、河川管理者の国以外の皆様にどうやっていただくかというところも重要だと思っている。本省でも「自分事化検討会」という会議が立ち上げられており、如何に流域の皆様に流域治水を自分事として考えていただくかを議論している。引き続き流域治水の推進について河川管理者がしっかり考えていくべきだと考えている。

［事務局］

「現計画に基づき河川整備を実施していく」の一文については、前提として流域治水の視点をしっかりと持った上で、河川整備計画に基づき整備を進めていく。

（３）今後の予定

意見・質問等なし

以上